

## 在宅医療・介護連携についてのアンケート

発送数：222 回答枚数：166（回答施設数162） 回答率：74.8%（73.0%）

松山市で在宅療養をされている高齢者の支援において、在宅医療と介護の連携を考えた場合についてお尋ねします。該当するものに☑を入れて下さい。

1. 貴薬局では在宅患者に対する訪問薬剤管理指導（居宅療養管理指導）を実施していますか。

	件数	割合 (%)
している	101	62.1
していない	62	37.9
将来は実施するつもり	45	88.0
将来も実施するつもりは無い	7	12.0

※将来も実施するつもりは無いと答えた方は、その理由をお書きください。

- ・ 近々閉店する見込み。
- ・ 同じグループで在宅を主にしている薬局があるため、当薬局でどうしても対応しなくてはいけない場合は実施するかもしれない。
- ・ 人員不足。
- ・ 薬剤師1名での実施は出来ない。
- ・ 在宅は無い。

2. 在宅で、医療と介護を必要とする高齢者の支援における、在宅医療や介護の連携について、現在、在宅医療や介護に関わる多職種との連携はうまく取れていると思いますか、一つ選んでください

	件数	割合 (%)
取れている	18	11.5
概ね取れている	62	39.7
あまり取れていない	56	35.9
取れていない	20	12.8

3. よく連携が取れていると感じている事業所、職種を上げて下さい。（上位3つまで。選択肢に適切なものが無い場合は、「その他」に具体的な職種や機関名を記入して下さい。）

	件数	割合 (%)
医師（病院、診療所）	106	28.7
歯科医師（歯科診療所）	3	0.8
薬剤師（調剤薬局）	22	6.0
看護師（病院、診療所）	64	17.3
医療ソーシャルワーカー、社会福祉士（病院、診療所）	8	2.2
歯科衛生士	0	—
管理栄養士	0	—
ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	77	20.9
介護職（デイサービス）	13	3.5
介護職（ヘルパー）	43	11.7
地域包括支援センター職員	4	1.1
その他（高齢者施設の看護師、介護事業所の看護師、入居先施設の職員）	3	0.8
なし	25	6.9

4. 連携が取りにくいと感じている事業所、職種を上げて下さい。(上位3つまで。選択肢に適切なものが無い場合は、「その他」に具体的な職種や機関名を記入して下さい。)

	件数	割合 (%)
医師 (病院、診療所)	33	9.1
歯科医師 (歯科診療所)	46	12.6
薬剤師 (調剤薬局)	13	3.6
看護師 (病院、診療所)	19	5.2
医療ソーシャルワーカー、社会福祉士 (病院、診療所)	49	13.5
歯科衛生士	28	7.7
管理栄養士	36	9.9
ケアマネジャー (居宅介護支援事業所)	27	7.4
介護職 (デイサービス)	17	4.7
介護職 (ヘルパー)	20	5.5
地域包括支援センター職員	50	13.7
その他 (広域病院)	1	0.3
なし	25	6.9

5. 今後、更に連携を強化していく必要があると思われる事業所、職種を上げて下さい。(上位3つまで。選択肢に適切なものが無い場合は、「その他」に具体的な職種や機関名を記入して下さい。)

	件数	割合 (%)
医師 (病院、診療所)	72	17.2
歯科医師 (歯科診療所)	22	5.3
薬剤師 (調剤薬局)	22	5.3
看護師 (病院、診療所)	43	10.3
医療ソーシャルワーカー、社会福祉士 (病院、診療所)	38	9.1
歯科衛生士	4	1.0
管理栄養士	21	5.0
ケアマネジャー (居宅介護支援事業所)	73	17.5
介護職 (デイサービス)	20	4.8
介護職 (ヘルパー)	39	9.3
地域包括支援センター職員	53	12.7
その他	0	—
なし	11	2.6

6. 多職種間の連携がうまくいくには何が必要と思われますか。(上位3つまで)

	件数	割合 (%)
職種間の専門性や置かれている状況の理解	89	21.0
患者(利用者)情報の共有	110	26.0
役割分担の明確化	38	9.0
連携コーディネーターの存在	63	14.9
連携窓口の設置	44	10.6
サービス担当者会議の開催	35	8.3
患者(利用者)及び家族の理解	39	9.2
その他 (多職種との情報共有ができるツールや場、各事業所がもっと在宅をするための知識をつけるべき、訪問診療時の医師の理解、なし)	4	0.9

7. 多職種との連携において、最も有効と思われるツールは何ですか、一つ選んでください。

	件数	割合 (%)
共通の連携シート (紙媒体)	64	39.8
ICTによる情報共有ツール	63	39.1
お薬手帳のような個人で持つ情報シート (ノート)	32	19.9
その他 (直接、なし)	2	1.2

8. 多職種との連携、連絡に普段活用している手段は何ですか、一つ選んでください。

	件数	割合 (%)
電話	111	66.1
FAX	37	22.0
メール	2	1.2
面談	9	5.4
その他 (連絡用ノート、報告書、会議を必ず行う、なし)	9	5.4

9. 多職種間の連携が特にうまくいっていない場面はどこですか。(複数回答可)

	件数	割合 (%)
日常の療養支援	41	21.2
入院時	43	22.3
退院時	50	25.9
急変時	41	21.2
看取り	18	9.3

10. 介護支援専門員 (ケアマネジャー) との連携についてお尋ねします。

① 関わりのある介護支援専門員に求めること (複数回答可)

	件数	割合 (%)
介護申請あるいは主治医意見書作成に関する情報提供	84	19.1
外来時の同行	101	23.0
生活状況、家族状況などの情報提供	20	4.5
居宅サービス計画の提出	39	8.9
サービス担当者会議に参加依頼がくる	36	8.2
生活状況や状態が変わった時に連絡が入る	71	16.1
入院、退院の連絡が入る	75	17.0
担当の挨拶をもらう (書面、訪問診療時)	10	2.3
その他 (初回訪問時同行していただくと良い。現在関わりのない。基本的に連携はできている。なし)	4	0.9

② 介護支援専門員 (ケアマネジャー) に求める力量について (上位3つまで)

回答の多い順	件数	割合 (%)
最低限の医療知識を持つ	48	12.2
明確に状況や質問内容を説明できる	77	19.6
本人についての正しい情報を得ている	89	22.6
多職種との交渉力	46	11.7
多職種との調整力	76	19.3
社会的なマナー	19	4.8
社会資源の情報量	8	2.0
医療制度の理解	25	6.4
会議の有益な進行力	2	0.5
その他 (状況や質問内容を明確かつ主観を)	3	0.8

混えず説明でき、自分の見解を述べられる力。現在関わりがない。なし)		
-----------------------------------	--	--

③介護支援専門員（ケアマネジャー）との希望する連絡方法について（複数回答可）

	件数	割合 (%)
窓口（担当者）を通しての連絡	45	13.6
ケアマネタイム等の利用	23	6.9
FAX	60	18.1
電話	86	25.9
メール	41	12.3
面談（訪問時同席）	25	7.5
面談（薬局にて）	19	5.7
ICTを活用したシステム	33	9.9

④介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携が進まない理由は何だと思いますか（複数回答可）

	件数	割合 (%)
必要性がわからない	9	3.3
時間の余裕がない	54	20.0
医師に代わる担当者が院内にいない	48	17.8
介護保険制度がよくわからない	14	5.2
介護支援専門員からのアプローチがない	73	27.0
人によって連携の取りやすさに違いがある	61	22.6
その他（※）	11	4.1

※薬局・薬剤師側からのアプローチ不足。薬剤管理の責任を薬剤師が持てないため。連絡方法の確立。薬局からの情報提供についての回答がない。現在関わりがない。ケアマネジャーが事業所にいないイメージ（いつも出ている）。連携が取れていると思うので特にありません。電話連絡により進んでいる。誰に連絡していいか不明。困ったことがない。なし。

1.1. 介護支援専門員（ケアマネジャー）以外の介護関係者（デイサービスの職員やヘルパー等）との連携についてお尋ねします。

①介護支援専門員（ケアマネジャー）以外の介護関係者（デイサービスの職員やヘルパー等）と連絡をとりあったことがありますか、一つ選んでください。

	件数	割合 (%)
よく連絡を取り合っている	31	19.7
連絡を取ることがある	58	36.9
ほとんど連絡を取ることがない	49	31.2
連絡を取り合ったことがない	19	12.1

②介護支援専門員（ケアマネジャー）以外の介護関係者（デイサービスの職員やヘルパー等）と直接連携を取る必要性を感じますか。一つ選んでください。

とてもそう思う そう思う あまり思わない 思わない

	件数	割合 (%)
とてもそう思う	49	31.6
そう思う	91	58.7
あまり思わない	12	7.7
思わない	3	1.9